



どの学校にも卒業して旧交を温め懇親を深める集いの場として「同窓会」組織がありますが、本校の同窓会は非常に古く記録によると開校十年後の明治二十七年(一八九四年)頃には既に「馬関校友会(馬関商業学校の卒業生による組織)」と呼ぶものがあつたと記録があります。但し、正式な同窓会発足の時期は、明治三十一年九月であるようです。その後、同窓会は校友会(在校生を通常会員・卒業生を賛助会員・教職員を特別会員)として組織が改編され、明治三十五年には初の同窓会誌でもある「市立赤間商業学校校友会誌」が発行されました。これは、現在の同窓会誌と会員名簿を併せ持った内容で編集されたものでした。

この校友会時代(明治三十四年から大正十年頃)の同窓会として

の活動は、卒業生全体の活動(総会)は余り盛んではなかつたのですが、国内外で活躍される同窓生の地区別会(各地・各職場・各同期会)などの結集は盛んであつたようです。ここで当時の主な各支部会などを敢えて紹介(発足年)しますと①京浜(明治三十三年) ②大阪(明治三十九年) ③シアトル(明治四十年) ④釜山(明治四十二年) ⑤大連(明治四十二年) ⑥小樽(明治四十四年) ⑦京城(大正三年) ⑧上海(大正五年) ⑨小野田(大正十年) などや現在の大学にあたる会では、⑩山口高商(明治四十四年) ⑪慶応義塾(三田会、大正三年) などが活発に活動されてい

たようです。そこで各地区を詳しく調べてみますと全部で二十四もの支部(前述以外に名古屋・山口・萩・宇部・小倉・若松・大分・福岡・長崎・平壤・奉天・青島・台湾など)でいかに当時は国内外で活躍されていた同窓生が多かつたかが伺えます。ちなみに、現在同窓会入会式で「橋本賞(高価な純銀製の盾)」という毎年十名の優秀な卒業生に対して同窓会賞を贈呈(平成十一年度から二十五年間)していますが、これは昭和二年卒業の故橋本内匠氏(卒業後に中国に渡つてエネルギー産業の会社に就職され、戦後引き上げ後に東京で橋本産業という大会社を一代で築かれた方)が母校の後輩に亡くなる前にこのような形で熱い思いを託されたのです。

終戦直後は、さすがに同窓会の機能は停止していたのですが、当時の校長(第二代 上田強氏)によつて現在のように生まれ変わりました。それは、①社団法人化(本校の同窓会は昭和二十六年八月に法人化組織として認可 ※現在は、平成二十年からの公益法人制度改革に則り、今年の四月に「一般社団法人 下商同窓会」に移行し設立の予定 ②従来は会長が校長であつたのを同窓生の中から理事長を選出(現在は山本徹氏、昭和三十三年卒 西中国信用金

庫理事長)に ③同窓会館を建設(現在も日和山にあります) ④会員名簿(現在は五年に一回発行の年記念号)を復刊 ⑤会員バッジを制定(現在同窓会入会式で卒業生に贈呈) ⑥全国各支部の再結成に務めたなどの手腕を発揮されました。参考までに、前述した公益法人制度改革に伴つて(財)市立下関商業学校教育後援会が平成二十五年六月十九日を以つて清算終了したことに伴い財産(不動産等)を下商同窓会に六月二十九日付けで移譲されました。

記録を見ていくと同窓会組織で一番大切な会である「総会」は、昭和初期の頃は毎年二回(春秋)開催されていましたが、秋は運動会当日に開催されていたこともあり、いつしか春一回になりました。創立百周年(昭和五十九年)を期として、開校記念の月(十月)に総会を開催することとなり現在に至ります。この最近で一番多くの参加者で賑つたのはやはり創立百周年の同窓会総会で学校の体育館で約千三百人もの方々が集い大盛況でした。私(筆者)も翌年が当番幹事の大役を務めることになつ

ていたのであまりにも多い参加者で翌年開催に向けて気が引き締まる思いでした。十和会(昭和十年卒)や知新会(昭和十二年卒)の大先輩の方々が揃いのブレザー姿で同期会の旗を威勢よく振りながら校歌・応援歌を歌われていたのがつい昨日のことに思ひ出されます。

同窓会事務局を担当して全国支部会に参加させていただく時にも思うのですが、皆さんの顔が青春時代に遡つて若返り、学生当時の楽しい思い出に花が咲きあつたという間に時間が経つていきます。母校のこと、下関のことがやはりいつも気になつておられるようです。

最後に、待望の講堂建設にあつて全国の同窓生の母校に対する熱い思いが沢山の浄財として集められ、当初の予定通りに必要な備品類を購入できたことは本当に感謝の気持ちで一杯です。生徒のみならず、みなさんいずれば本校の同窓生として社会で大活躍する場が来ますが、どうぞ胸を張つて下商生としての自信と誇りを持って先輩方

に負けないように頑張つて下さい。